私は、民主党目黒区議団を代表して、議案第 52 号、平成 26 年度目黒区一般会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場から討論いたします。

平成 26 年度は、何と云ってもやはり、消費税が 8%に引き上げられるところからスタートいたしました。区民の懐には決して優しくないという側面は否めないものの、社会保障の持続性という観点からすれば、避けては通れない道であり、平成 24 年に交わされた、社会保障と税の一体改革に関する民自公の 3 党合意が約束通り履行されたことは評価すべきものと考えます。一方で、10%への引き上げの課題が残されている所ではありますが、いずれにせよ、本区においても、消費税の引き上げが区内事業者や区民生活に与える影響については、今後も常に留意をしていく必要があるでしょう。

さて、本区における平成 26 年度は、平成 24 年度から 3 年間かけて取り組んだ「財政健全化に向けたアクションプログラム」の締めくくりの年度として、財源確保の取り組みを変わず進める一方で、行財政運営基本方針に定められた 3 つの重要課題、「災害に強い安全・安心の地域づくりの取組」、「子育て支援と教育を充実し、暮らしや健康を支える取組」、「環境を守りはぐくむ地域づくりの推進」、これらに対応するという、前年度に引き続いて難しい舵取りを迫られた年度でありました。

それぞれの課題につきましては、例えば防犯カメラの設置助成や、東京都の木密地域不燃化 10 年プロジェクトとの連携などを通じた防犯・防災対策の推進、認可保育所の整備や定員拡大による受け入れ枠の増や、がん検診の周知を進めたことによる受診率の向上などを通じた区民福祉の強化、使用済み小型家電回収の開始などを通じた環境問題への対応など、様々な角度からの取り組みが実施され、歳出の決算額では前年度比 42 億 9913 万円余増の 903 億 8537 万円余となり、区民サービスの量と質の向上が図られました。

一方で、経常収支比率は、いまだ適正と言われる水準を超えてはいますが、85.7%と前年度比で 0.7 ポイントの改善、これまで 4 年連続で改善していることに加え、積立基金、特に本区の課題である財政調整基金については、差し引きで 41 億 1780 万円余を積み増して、残高は 100 億 9921 万円余となり、財政健全化の取り組みが同時に進められたことは、評価すべきものと考えます。

もちろん、財政の建て直しは道半ばでありますので、今後につきましても、区自身が随所で示している通り、安定的な財政運営を可能とする強固な財政基盤の確立に向け、不断の行財政改革に取り組む必要がありますし、区有施設の見直しや、行政評価制度の導入を含め、従来の発想にとらわれない創意・工夫が求められることを申し添えておきます。

次に、区は平成 28 年度行財政運営基本方針において、「安全・安心なまちづ

くりの取組」、「子育て支援と福祉・教育を充実する取組」、「環境と調和した持続可能な社会づくりの取組」の3点の重要課題を挙げていますが、これらを踏まえたうえで、先の決算特別委員会における審議を通じ、今後の区政について、我が会派の委員から指摘させて頂いた事項について申し上げます。

まず行財政一般について、収入未済や不納欠損は、法令や条例等を踏まえて適切に処理し、収納効率をより高めていくこと。職員提案制度の再検討や大学との連携の深化、深める方の深化です、これらによって、行政効率をより向上させること。

子育て支援・教育について、開設が遅れている認可保育所のオープンに向け、積極的に進めること、保育士の確保策をさらに充実させること。子ども110番の家や成人の日のつどい等を通じた青少年の健全育成を推進すること。OECD加盟諸国の中で最悪とされている、教員の多忙感の解消に取り組むと同時に、小中一貫教育も視野に入れつつ、効果的な教育についての調査・研究を進めること。

福祉の充実について。ごく最近、有名人が手術を受けたことで大きな話題となっていますが、乳がんの検診の通知を徹底し、受診率のさらなる向上を図ること。区民斎場や民間保養施設のさらなる周知によって、より多くの区民にご利用頂けるように努めること。敬老のつどいや8020運動を通じ、健康寿命の延伸に努めること。いまだニーズがあることから、区内の銭湯・公衆浴場の減少に歯止めをかけるべく、経営者の声に耳を傾けること。

芸術文化について、指定管理者とともに魅力的な目黒区美術館の企画・運営を心がけ、利用者の増、区民の文化活動の活発化を図ること。

以上の指摘事項と審議内容をしっかりと考慮頂いたうえで、3点の重要課題に向けた取り組みを充実させながらも、引き続き行財政改革の手は緩めず、より効率的な区政運営にあたって頂くことを要望いたします。そして、最近のテレビドラマで、スーパー公務員が限界集落を立ち直らせるドラマがありましたが、物事を成し遂げるにあたって、最後に物を言うのは、やはり人の力でありますから、職員の皆さまのパフォーマンスを最大限に引き出すための区長のリーダーシップに期待をしております。

結びに、分権化および多様化する社会の中で、ますますその役割の重要性が高まっている行政に対し、二元代表制の一翼を担う議会が埋没することのないよう、われわれ自身も変わっていかねばならないという強い決意を表明して、議案第52号、平成26年度目黒区一般会計歳入歳出決算の認定についての賛成討論とさせていただきます。